

3. フナ・モロコ資源増大対策研究費

1) ホンモロコの産卵期を中心とした分布状況

井嶋重尾・孝橋賢一

【背景】近年のホンモロコの漁獲量は200t台で安定しているが、1982年には407tを記録したこともあり、より一層の漁獲量の増加のため、増殖事業の実施方法を検討する必要がある。

【目的】ホンモロコの産卵期を中心とした分布状況を調査することにより、ホンモロコの産卵接岸動向を推定し、増殖施策を実施する上での基礎資料とする。

【成果の概要】1. 94年11月～95年12月の間、沿湖の主要12漁協においてホンモロコを購入し、漁獲場所別CPUE(出漁数あたりの漁獲量)を調査することにより、ホンモロコの分布、移動状況を推定した。

2. ホンモロコの主な漁場は、冬期はほとんど北湖にあり、南湖で大量に漁獲されるのは5月以降であった。特に産卵期直前～前期の3～4月には、志賀町沖においてCPUEが1,415～9,995尾となり、特に集中して漁獲されていた。エリ、刺網、沖曳のどの漁法でも大量に漁獲されており、漁具を問わない結果であった。例年この時期は同様の状況になるとの漁業者からの情報があり、南湖に移動する産卵親魚が例年この地点を通過しているのではないかと思われる。
 3. 3月の調査において、北湖のエリにおけるCPUEは最高で906尾であった。また産卵期の4～7月に北湖北西部のエリにおけるCPUEは、わずか129～327尾であった。これらのことより、ホンモロコはニゴロブナと異なり、北湖の沿岸にはあまり接岸産卵していないものと思われる。
 4. 5月以降、北湖ではほとんど漁獲されず、南湖でCPUEが増加した。また7月を過ぎると、再び北湖で漁獲されるようになり、以後、北湖全体に漁獲場所が広がる傾向が見られた。これらの漁獲状況は、産卵期には主に南湖に生息し、産卵が終わると北湖に出ていくという移動状況を示しているものと思われる。
- 【成果の活用】ホンモロコの主要な産卵場は南湖にあると思われるので、今後、産卵場の造成、親魚保護のための保護水面の指定等の産卵に関する増殖事業は、南湖を重点地域として推進することが望ましいと思われる。

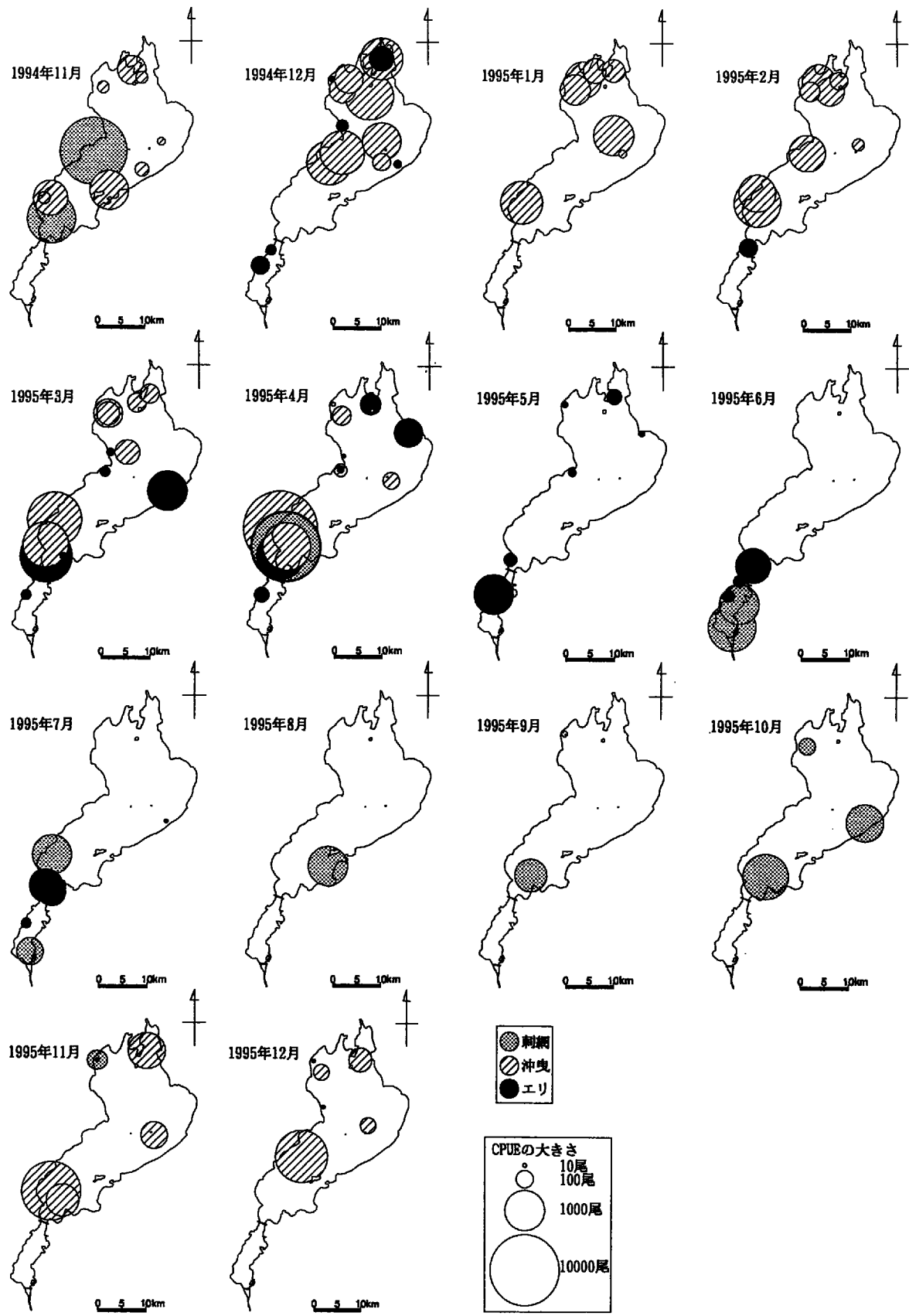


図 ホンモノの月別CPUEの推移.